第23講　副助詞・識別（し）

PART1　だに・すら・さへ

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	
さへ	添加（〜　　　）

※「**だに**」には**限定用法**（＝　　〜　　　）もある。

（例）

（帥殿〔＝伊周（これちか）〕は）的のあたりに**だに**近く寄らず、無辺世界を射給へるに…。

鬼ある所とも知らで、神〔＝雷〕**さへ**いといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、…

〈Memo〉

第23講　PART1　確認問題

①　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「ほたるばかりの光だになし。」

ア　だけしか　　イ　さえも　　ウ　だけでも　　エ　ばかり

②　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「郷里を廻れど一親にすら会はず、…」

ア　まで　　イ　しか　　ウ　やっと　　エ　さえ

③　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「風吹き、浪激しけれども、雷(かみ)さへ頂に落ちかかるやうなるは、…」

ア　までも　　イ　さえ　　ウ　だけでも　　エ　しか

④「ちかくだにえ寄らで、…」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　近くに寄ってきて、…
イ　近くにだけでも寄りたくて、…
ウ　近くにさえ寄ることができなくて、…
エ　近くへと言っても寄ってこなくて、…

⑤「いまより後は、<u>毛の末一筋をだに動かしたてまつらじ。</u>」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　毛の先一本だけでも動かしてはいけません
イ　毛の先一本でさえも動かし申し上げません
ウ　毛の先一本だけであれば動かし申し上げられます
エ　毛の先一本だけでは動かし申し上げられません

第23講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 下に「なし」と打消の言葉があることから、程度の類推を表す「だに」とわかるので、「〜さえも」という意味になる。よって、イが正解。

② 「すら」は程度の類推を表す。前後を含めると「郷里を探し回ったが、片方の親にさえ会えず、…」という意味になる。よって、エが正解。

③ ここで使われている「さへ」は添加の意味を表すので、「〜までも」となる。前の部分が「風が吹き、波が激しいけれども、（そのうえ）雷」ということからも推測できる。よって、アが正解。

④ 「だに」は程度の類推を表す副助詞。「え」＋「寄ら」＋「で」で、「寄ることができなくて」という意味になる。よって、ウが正解。

⑤ ここでの「だに」は「〜さえ」「〜さえも」の意味の副助詞。「動かしたてまつらじ」は、「じ」が打消の意志を表して、「動かし申し上げません」という意味になる。よって、イが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ア　④ ウ　⑤ イ